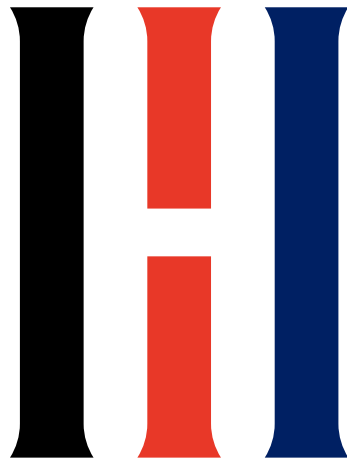


# Sustainability Report 2021



株式会社スリーハイ

## CONTENTS

トップメッセージ	1
経営理念・ビジョン・クレド	2
事業内容	3
スリーハイの価値共創プロセス	4
TOPICS	
神奈川県 令和2年度「SDGs経営に向けた中小企業伴走型支援事業」に採択されました。	6
I 毎日の当たり前を日常に	7
II コミュニケーションを通じた気づきの場づくり	10
III 製造業の担い手を増やす	12
スリーハイの働き方改革	16
スリーハイ SDGs アクションプラン	18
表彰・認証・認定	20
第三者意見	21



### トップメッセージ

## 価値プロセス可視化の時代へ

私たちは横浜市都筑区東山田にある小さな町工場です。  
主たる製品は、産業用電気ヒーターで、「熱に困った」お客様に対し、丁寧に関わり、これまで約7,000社の課題を解決してまいりました。

設立から32年が経ち、時代は大きく変わってきました。  
企業の大小に限らず、強みを認識している会社は経営資本を可視化し、従業員と共有し、発信しています。それこそが存在価値であり、企業の使命であると考えます。

昨年、私たちスリーハイは、よりしなやかな組織を目指すべく、30周年を機にリブランディングを行いました。そこで出た答えの1つに、ステークホルダー経営があります。

ステークホルダーに対し、  
できていることを、きちんと伝える。  
できていないことを、認め、改善する。

本誌『Sustainability Report』は、まさにステークホルダー経営宣言であります。

スリーハイの価値プロセスを可視化し、これから出会うだろう多くのステークホルダーの皆さまとともに、この東山田の地域のなかで、企業としての役割を果たしてまいります。

2022年6月

株式会社スリーハイ

代表取締役 **男澤誠**

### 【本誌の編集方針について】

・報告期間：2020年10月～2021年9月

※一部の情報については2021年10月以降の内容も含む

・報告対象組織：株式会社スリーハイを基本としています。

・参考ガイドライン：経済産業省「価値協創ガイダンス」、環境省「環境報告ガイドライン」を参考にしています。

・発行日：2022年6月

## 経営理念

# ものを思う。ひとを思う。

モノづくりを通して、関わる人たちを温めていきたい

## ビジョン

# 温めるをつくること

モノだけでなく、あらゆるものを温めていきたい

## クレド

- こだわり ～スリーハイらしさ～
- 成長 ～はじめの一步～
- 喜 楽 ～ワクワク～
- 実 行 ～チャレンジ～
- 連 帯 感 ～チームプレイ～
- 感 謝 ～ありがとう～

## 2021年1月ブランドコンセプトをリニューアルしました。

[コンセプト]

Ⅲを再定義し、これまで培われてきた3つのHighを次の時代へ進化させる。

- ・ **HIGH TECH**  
more GLOBAL 世界に通用する日本ならではの  
高い品質と技術力
- ・ **HIGH TOUCH**  
more HUMAN もの・ひとを温めることができる  
人間味溢れるスタッフ
- ・ **HIGH FASHION**  
more SOCIETY 枠にとらわれない新しい製造  
業をつくり地域・社会を豊かに



ロゴマーク

THREE HIGH  
CO.,LTD. SINCE 1990

株式会社スリーハイ

ロゴタイプ

## 会社概要

商号：株式会社スリーハイ／創業：1987年／設立：1990年／本社：神奈川県横浜市都筑区東山田4-42-16  
 代表者：男澤 誠／資本金：1,000万円／決算期：9月30日（2021年より決算月を2月から9月に移行）  
 事業内容：産業用電気ヒーターの製造・販売／拠点：第一工場・第二工場・第三工場（全て横浜市都筑区内）  
 電話番号：045-590-5561／従業員数：36名（男性10名、女性26名）（2021年9月現在）

## 事業分野

### 社会のインフラを支える、ヒーターソリューションカンパニー

私たちは、製品を通して、お客様のところを温める「サービス」を提供したいと考えています。

1990年の設立以来、産業用電気ヒーターの製造・販売を中心に事業を展開してまいりました。

ヒーターと一言でいっても、シリコンラバーヒーター、ベルトヒーター、マントルヒーターなど様々です。お客様の目的や用途に応じた最適なソリューションをご提案・ご提供しております。



## 導入実績

### 幅広い業界・業種での導入実績

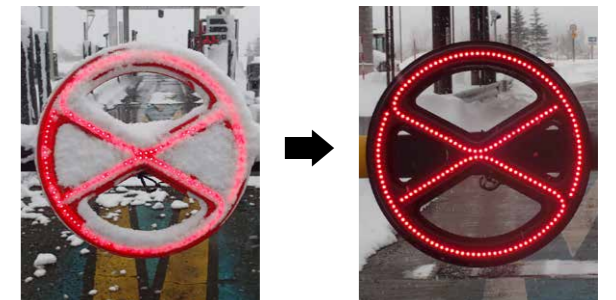
スリーハイの製品はあらゆる場所、あらゆる用途で活躍しています。

これまで、国内外問わず、多くの企業様にご利用いただいております。

【特に多く導入いただいている業界】

食品・自動車・化粧品・半導体・社会インフラ 等

侵入禁止表示器融雪用ヒーター



Before

After



融雪用ヒーター



ペール缶・一斗缶用ヒーター



楽器リペア用ヒーター



デジタル温度コントローラー

# スリーハイの価値共創プロセス

### 経営資源

#### 製造資本

- ・ハンドメイド技術
- ・高品質な製品づくり
- ・設備投資

#### 知的資本

- ・顧客情報管理ツールの導入
- ・在庫管理ツールの導入
- ・自社 EC サイトの運用
- ・産学官連携でノウハウ蓄積
- ・取得商標 9 件

#### 人的資本

スリーハイの理念に共感できる人財の獲得と育成  
組織構造の変革とISOマネジメント式組織の強化

- ・従業員 35 名  
(2021 年度の入社社員数 4 名  
うち 1 名は非正規からの雇用形態変更)
- ・障がい者雇用数 1 名
- ・地域からの雇用の創出
- ・電気工事士 (2 種) 3 名
- ・ISO の内部監査員資格保持者 2 名
- ・テレワークの推進
- ・福利厚生充実

#### 社会資本・自然資本

- ・CO<sub>2</sub> 排出量: 20.5t
- ・電気使用量: 46,680kWh
- ・産業廃棄物量: 182kg

#### 財務資本

- ・売上高 3.5 億円 (31 期)
- 1.9 億円 (32 期決算期変更のため 7 ヶ月決算)

(2021 年 9 月時点)

### 取り組む社会課題

・地球温暖化の深刻化	・技術の承継
・脱炭素社会の実現	・安全性や BCP の重要性の高まり
・国内製造業の衰退	・労働環境・労働安全へのリスクの高まり
・町工場の下請け構造	・ダイバーシティの重要性の高まり
・海外への技術の流出	・女性の M 字カーブ解消

### 事業活動・ビジネスモデル

#### 事業活動

#### 重点分野

#### 3つの強み

- ①モノづくりの強み**  
卓越したハンドメイド技術で、機能性と見た目の美しさを兼ね備えた製品
- ②人財・組織の強み**  
スリーハイの理念を体現する人財
- ③自社ブランドの強み**  
充実した情報量と親しみやすさを持つ自社サイトと自社 EC サイト「スリーハイオンラインショップ」で積極的な情報開示

#### 製品 (アウトプット)

**オリジナル製品**  
お客様の声をもとに生み出されたスリーハイのオリジナル製品

**カスタマイズ製品**  
1,000 種類以上ある製品のなかから、最ご希望に合う製品を最適な仕様で製造したオーダーメイド製品

**汎用製品**  
常時取り扱っている人気のスタンダード製品。スリーハイオリジナルの EC サイト「スリーハイオンラインショップ」からも購入可能な規格品

**新製品開発**  
お客様のニーズから生み出される新サービスや新技術製品

# ありたい姿 温めるをつくること

### ステークホルダーへの提供価値

- I 毎日の当たり前を日常に (安心して過ごせる環境をお客様に)**
  - ・温める技術で、お客様が常に安心して作業できる環境を提供
  - ・環境配慮型製品の開発で住み続けられる地球環境に寄与
  - ・国内外問わず購入できる環境づくりの整備
  - ・顧客の声をもとにしたオリジナル製品開発
- II コミュニケーションを通じた気づきの場づくり**
  - ・親身な相談先として寄り添える顧客とのリレーションを構築
  - ・地域活動を通じた地域とのつながりの強化
  - ・インターンの積極的な受け入れ
- III 製造業の担い手を増やす**
  - ・「こどもまち探検」プログラムで製造業を身近に
  - ・高品質で安全な製品をお客様に安定供給
  - ・魅力溢れる職場づくりで優秀な若手人財の確保
  - ・技術の継承

**ステークホルダーマップ**

当社が大切にしている主なステークホルダー。それぞれのニーズやウォンツに向き合い、最適な製品・サービスを提供しています。

### 企業価値の向上

#### 製造資本

- ・生産工程の DX 化
- ・新技術の共同研究開発
- ・環境にやさしい製品の開発
- ・海外規格製品の開発
- ・自社ブランド価値の向上
- ・BCP の強化 (生産体制の構築)

#### 知的資本

- ・産学官連携で収益基盤の構築
- ・技術の向上と均一化

#### 人的資本

スリーハイの理念に共感できる人財の増員と育成

- ・モチベーション向上を目的とした成長制度の導入
- ・従業員 50 名
- ・障がい者雇用、LGBTQ の方の雇用 5 名
- ・電気工事士 (2 種) 4 名
- ・ISO の内部監査員資格保持者 4 名
- ・健康経営優良法人 (プライト 500) に入選

#### 社会資本・自然資本

- ・産学官とのつながり強化
- ・CO<sub>2</sub> 排出量: 0t
- ・電気使用量: 37,344kWh
- ・産業廃棄物量: 145,6kg

#### 財務資本

- ・売上高 目標 5 億円 (35 期)

35 期末時点 (2024 年 9 月まで) の目標

## 神奈川県 令和2年度

## 「SDGs 経営に向けた中小企業伴走型支援事業」に採択されました。

本業を通じた SDGs への貢献を目指す中小企業への支援策として神奈川県が推進している「SDGs 経営に向けた中小企業伴走型支援事業」の、令和2年度支援対象事業としてスリーハイが選定されました。県による伴走のもと、SDGs を取り入れた事業計画（SDGs 事業計画）を策定し、その実現に向けて取り組んでいます。「スリーハイ SDGs アクションプラン」の詳細は P18-P19 をご参照ください。

## &lt;選定理由&gt;

本業との直接的な関係はやや乏しいものの、現状行っている地域活動等を本業に組み込むことにより「地域に根差した町工場」という示し方も想定され、企業価値の向上に寄与することが見込まれる。

## これまでの本事業の取組み

- ・ 2020 年 12 月～ 2021 年 12 月 …SDGs 事業計画書およびスリーハイ SDGs アクションプランの作成
  - SDGs の目標から、インパクト評価方法を検討
  - サステナビリティレポート作成の方向性を策定
- ・ 2022 年 1 月 ……………サステナビリティレポートのページ構成を検討
- ・ 2022 年 2 月 ……………価値共創プロセスの作成

## SDGs 経営に向けた中小企業伴走型支援事業とは…（神奈川県ホームページより）

中小企業の関係者には、「SDGs の取組は大企業が先行して行っているもの」「SDGs には関心があるが事業への取り入れ方が分かりにくい」などの声が多くあります。

本事業では、中小企業に本業を通じた SDGs 達成への貢献を目指す経営（SDGs 経営）の実現に向けた最初の一步を踏み出してもらうため、金融機関と連携し、SDGs を取り入れた事業計画（SDGs 事業計画）の策定支援等を行う、中小企業伴走型支援の仕組みを構築しています。

## [支援内容]

1. SDGs を取り入れた事業計画（SDGs 事業計画）の策定支援
2. 策定した事業計画に基づく事業実施の支援
3. 事業計画を通じた金融機関等との対話の促進に向けた支援 等

SDGs 事業計画……本事業で策定支援を行う SDGs 事業計画は、SDGs 経営の実現だけでなく、取引先や顧客などの社外関係者と同様に、自社従業員など社内での対話にも活用できる内容になることを目指しています。

※詳細は神奈川県ホームページをご参照ください。

[https://www.pref.kanagawa.jp/docs/bs5/accompaniment\\_support.html](https://www.pref.kanagawa.jp/docs/bs5/accompaniment_support.html)



## I 毎日の当たり前を日常に



## 取組 I - 1

### STOP! 温暖化～再エネ 100% を達成!

2022年3月、すべての電源を再エネ100%に切り替え完了しました。昨年度実績からの試算で、来年度以降20t程度\*1のCO<sub>2</sub>を削減できる見込みです。2021年の国連気候変動枠組条約締約国会議COP26での合意事項である、温暖化1.5度以内の達成に向けてこれからも貢献していきます。

再エネ切り替えにあたっては、神奈川県温暖化対策事業である「かながわ再エネ共同オークション」\*2を活用し、効率の良い再エネ導入を進めることができました。

\*1

2020年11月～2021年10月までの電力使用量と、2020年度の東京電力排出係数0.441kg/kWhから算出

\*2

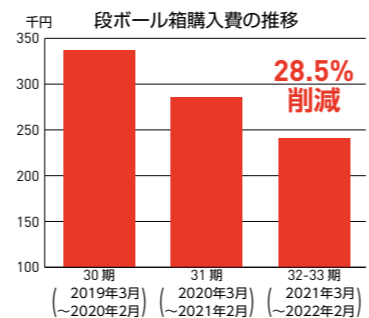
再生可能エネルギー電力の利用促進を目的に、神奈川県と株式会社エナーバンクの連携協定に基づく取り組みとして、リバースオークション（せり下げ方式の入札）により再エネ電力をより安価に調達できる仕組み。



## 取組 I - 2

### 段ボールの再利用で廃棄物削減

原材料や資材購入時に梱包されてくる段ボール箱を、当社製品の納入時に再利用する取り組みを2019年より開始しています。オリジナルのリサイクル表示シールを段ボール箱に貼ることで、お客様に環境配慮のため取り組みとしてご理解いただけるよう工夫しています。

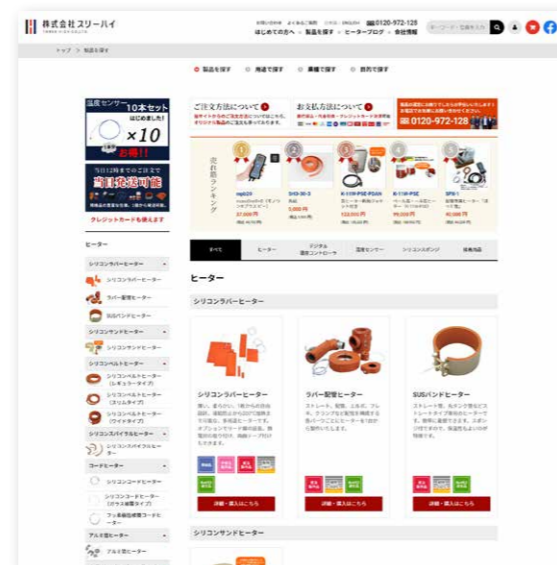


## 取組 I - 3

### オリジナルオンラインショップを開設

2020年3月、自社オリジナルECサイトの「スリーハイ オンラインショップ」を開設しました。

スリーハイが目指す提供価値である「毎日の当たり前を日常に」の充実に向けて、既存のネットショップに加えて、自社オリジナルのオンラインショップも用意し、アクセスの幅を広げました。また世界中どこにいてもスリーハイ製品が手に入る環境を整備するため、日本語に加え、英語・タイ語・ベトナム語の4か国語に対応できるよう準備を進めています。海外からも気軽にスリーハイ製品が購入できるよう、海外向けECサイトも開発中です。



## 取組 I - 4

### さらなる廃材の活用促進を目指して、オンラインショップでの販売を開始

さらなる廃材の活用促進を目指して、製品の製造過程で出た廃材・端材のオンラインショップ販売を開始しました。これまでは、希望される学校や個人の方に有志で協力提供していましたが、廃棄物削減の観点からさらなる廃材の活用促進を目指して、2020年よりスリーハイ公式オンラインショップにて販売も開始しました。



## 取組 I - 5

### オリジナルヒーターで工場は常に快適に

スリーハイではお客様のお声をもとにしたオリジナル製品の開発に力を入れています。

#### 底面ヒーター「GOEMON-150」(ゴエモン-150)

以前より食品業界や建築業界では、工場での加工・作業時に缶内の液体(アスファルト、オイル、塗料、チョコレートなど)を簡単に一度に温めたいというご相談をいただいております。

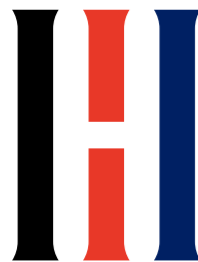
「GOEMON-150」は、最大4缶の一斗缶やペール缶を加熱できる効率性と、置くだけで簡単に温められる操作性の良さで、顧客の利便性を高める製品として好評いただいております。

#### ヌカ玉バスター®

精米時、配管に米ぬかが付着することに課題を感じていらっしゃる精米業者様へは、シリコンラバーヒーターを応用したオリジナルヒーター「ヌカ玉バスター®」を導入いただき、「配管清掃の頻度を削減できただけでなく、製品の品質の精度を高めることができた」と喜びの声を頂きました。

今後も、それぞれの業界のお悩みにあわせた製品を、お客様に寄り添いご提案することで、お客様が安全で快適な業務ができる環境づくりに貢献いたします。





## Ⅱ コミュニケーションを通じた気づきの場づくり

### 取組Ⅱ-1

#### 地域に開かれたオープンな工場目指して ～オープンファクトリー開催

安全面などへの配慮から閉鎖的になりがちな工場を、地域に開かれた場所にするために、オープンファクトリーを定期開催。親子で参加できる工作イベントを実施しています。（※新型コロナウイルスの影響により休止中）

従業員が案内役を務め、工場見学、製品に触れてもらう体験のあと、製造工程で発生するシリコンスポンジの端材を活用して、ゴリラのスマートフォン置きなどを製作。親子で試行錯誤しながら、工作を楽しめるイベントとなっています。近隣住民の方のほか、従業員も親子で参加しています。



### 取組Ⅱ-2

#### 「温める」をテーマにした異文化交流イベントを実施

多様性社会を推進するNPO法人SCCとともに「温める」をテーマにした子ども向け企画を開発し、DENで開催しました。近隣住民の方、従業員親子など、8組の親子が参加しました。

異文化交流によって参加者の多様性についての理解が促進されただけでなく、「温める」をキーワードにしたことにより、スリーハイの製品が導入できそうな販路の可能性に気付く機会にもなりました。

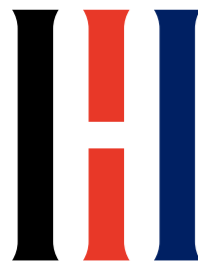


### 取組Ⅱ-3

#### 地域の小中学校との交流

近隣の小中学校でのSDGsの出前授業や、子どもたちが実施する調査への協力、近隣企業と連携してのアルコールや非接触体温計の寄贈など、日頃から様々な場面で交流しています。コロナ禍においては、地元中学校への応援メッセージ動画を、近隣の企業の皆さんと共に制作。子どもたちから感謝状や手作りのお礼の品をいただきました。





### Ⅲ 製造業の担い手を増やす

#### 取組Ⅲ-1

#### 製造業を身近に！「こどもまち探検」プログラムの実施

東山田地区の小学生の子どもたちが、東山田地区の工場見学をする「こどもまち探検」を2013年から実施しています。年々参加してくれる工場や協力団体が増え、例年この時期がくるのを楽しみにしてくれています。

小学3年生の「こどもまち探検」で地域にどんな仕事があるかを知り、小学5年生で工場生産について学び、中学2年生で職場体験という一貫したキャリア教育の仕組みが地域にできてきており、工場と子どもたち・地域の結びつきが、継続した学びを通してさらに育まれています。

#### こどもまち探検開催実績（2019～2020）

実施日	学 校 名	参加人数（概数）
2019年 5月 29日	横浜市立山田小学校 3年生	100
2019年 6月 7日	横浜市立東山田小学校 3年生	100
2019年 12月 5日	横浜市立東山田小学校 6年生	25
2020年 11月 16日	横浜市立東山田小学校 3年	25
2020年 12月 9日	横浜市立北山田小学校 5年生	90
2020年 12月 10日	横浜市立北山田小学校 3年生	30
2020年 12月 11日	横浜市立北山田小学校 3年生	30

※ 2021年は新型コロナウイルス感染予防として実施を見送りました。



スリーハイ内で社員が製品紹介



協賛会社有働夢計画様の入口にて事業紹介



協賛会社オウミ様の工場内にて作業紹介

#### 取組Ⅲ-2

#### 地域の製造業を見て聞いて、地域で働く魅力を感じよう 「おとなまち探検」開催

「こどもまち探検」の発展形として、60歳からの働き方講座や学び直し塾を開催しているNPO法人ロクマル主催の「おとなまち探検」で見学コースを提供しました。いつまでもイキイキと働くことができるシニア層のセカンドキャリア、サードキャリアを支援しています。



協賛会社㈱シーアンドディーアソシエイツ様にて  
かんな削り体験



協賛会社有働夢計画様では、子どもとは異なる  
質問が多く出ました



スリーハイのヒーターにふれる参加者



取組Ⅲ-3

職業講話で子どもたちの夢を応援

子どもたちの夢を支援する活動として、高校生向けの会社情報誌「みらい百花」を発行している NPO 法人アスリードの活動をサポートしています。

スリーハイ社員がライフチャートを用いながら、この仕事を選んだ理由や、仕事を通しての経験などを話し、生徒の質問に Q&A 形式で答える機会を設けています。例年スリーハイ社内で開催されていましたが、2021 年度はオンライン開催となりました。

〈実施校〉

2021 年 1 月 15 日 神奈川県立新栄高等学校

2021 年 7 月 20 日 私立横浜中学校



『みらい百花』の当社紹介記事（左）

取組Ⅲ-4

海外進出に向けての一步～留学生インターンシップの受け入れ

スリーハイでは、2018 年頃より海外での販売展開を検討し準備を進めています。海外展開にあたっては従業員が海外の文化や言語に慣れることを大切に、社員教育と社会貢献を兼ねて留学生のインターンシップ受け入れを実施しています。

これまで、ヨルダン・カザフスタン・ウズベキスタン・タイ・オーストリア・フィリピン・ベトナム・アメリカなど様々な国籍の留学生を受け入れてきました。

2021 年は、横浜の大学に通う留学生向けにリモートインターンシップを開催。学生 4 名が参加し、出身国でスリーハイの製品を販売することを想定し、現地における類似商品の調査をはじめ、マーケティングや販路について提案してもらい、現地調査に協力いただきました。



ウズベキスタン人のアリさん



オーストリア人のハンナさん（前列右から3人目）



カザフスタン人のゼレさんによる英語勉強会

取組Ⅲ-5

製造業の未来と若者たちの未来のために～会社見学会の実施

スリーハイでは、子どもから社会人、シニア層まで様々な世代の方を対象に会社見学会を実施し、製造業の可能性を広げています。

これまで、国際協力機構 JICA 横浜センター主催の研修会や大学のゼミ、定時制高校の生徒など様々な方々が見学にいらしています。

会社見学会実績（2019～2021）

実施日		学校名	参加人数(概数)
2019年10月1日	職場体験	横浜市立中川中学校	2
2019年10月30日	見学	桜美林大学	16
2019年11月8日	見学	神奈川県立横浜翠嵐高等学校 定時制課程	55
2019年11月6.7.8日	職場体験	横浜市立東山田中学校	2
2019年11月14日	見学	Mapúa University 職員ご一行訪問	3
2019年11月	学校訪問	横浜市立東山田小学校訪問	25
2019年11月25日	見学	JICA 横浜センター主催研修	16
2020年1月15日	職場体験	横浜市立茅ヶ崎中学校 2年生	3
2020年2月17日	見学	横浜市立大学・埼玉学園大学 柴田仁夫教授ゼミが視察	16
2020年7月8日	見学	一般社団法人経営実践研究会	4
2020年12月1日	見学	横浜市立東山田小学校	30
2021年7月14日	学校訪問	横浜市立北山田小学校5年生	60
2021年12月9日	学校訪問	横浜市立東山田小学校特別支援級	3
2021年12月9日	学校訪問	横浜市立東山田小学校3年生	100



JICA 横浜センター主催の研修会



横浜市立大学・埼玉学園大学 柴田ゼミ



横浜翠嵐高等学校 定時制課程 工場見学

Mapúa University とインターンシップ基本合意

2019 年 9 月、フィリピンの有名私立理系大学である Mapúa University とインターンシップ受け入れに関する基本合意書を締結しました。2019 年 11 月上旬には、Mapúa University の学生 1 名の受け入れを実現。今後も、Mapúa University と良好な関係を築くとともに、海外展開を積極的に推し進めてまいります。



取組Ⅲ-6

品質向上と環境負荷低減のために～ISOの取り組み

スリーハイでは ISO9001 と ISO14001 を取得し、品質向上と環境負荷低減のマネジメントシステムを運用しています。ISO マネジメントを徹底するため「ISO 品質保証委員会」を発足。不良の抑制や、不良の再発防止策の実施などに努めています。

また、ISO を全社員で運用できるよう、定期的に社員研修を行っています。2021 年 9 月にはコンサルタントによる勉強会を実施。33 期となる 2021 年 10 月からは新たな管理手法として、プロジェクト管理の運用を開始しました。

その他、品質の維持・向上を目的に動画やマニュアルを活用した技術伝承を行い、後継者の育成にも力を入れています。



定期的実施している ISO 社内勉強会

# スリーハイの働き方改革

## 制度づくり

### 勤務間インターバル制度

長時間労働や過重労働による自殺やメンタルヘルス障害が社会問題となり、残業時間のみならず総労働時間の削減が急務になっていることを受けて、2019年4月に法整備された「勤務間インターバル制度」。スリーハイでは法律の施行に先駆け、2018年3月より同制度を導入。勤務と次の勤務の間隔を9時間空けることを義務付けることで、残業の抑制とともに従業員の健康増進、プライベートの充実など、様々な効果を期待しての導入でした。

導入後1年を経過したころから成果があらわれ、以前は月40～50時間だった残業時間が、技術職ではほぼゼロ、営業職でも20時間程度に削減することができました。また、従業員に残業削減の意識付けを行うことで、お互いの仕事を手伝い合う習慣が生まれ、部署で、チームで、会社全体で仕事を進める機運、支え合う文化や風土を作ることができました。

### フレックスタイム制の導入

スリーハイでは、メンバーのライフスタイルに合わせて柔軟に働ける環境づくりのひとつとして、フレックスタイム制を2020年に導入しました。日々の始業・終業時間はメンバーの裁量に委ねられているため、保育園の送り迎えや、私用での早帰りも可能です。業務とプライベートの両方を充実させながら、効率的に働くことができます。

### テレワーク制度の導入

スリーハイでは営業統括本部のメンバーを中心に、テレワークをできる環境を整備しています。会議はZoomを活用。外出時にも内線電話が使える環境を作ったり、顧客情報管理などのクラウドサービスを活用することで、オフィス勤務者では半数以下の出勤を実現しました。

継続したテレワークをできる環境をつくることで、家族の都合で遠方にいる社員の離職を防ぐことができました。

### フォローアップ制度の導入

従業員が目的意識と納得感を持って仕事に取り組む環境を整え、会社と個人の相互理解を進めることで風通しの良い組織を作るために、フォローアップ制度を導入しています。2か月に一度、メンバーの成果や課題を上司と共有し、確実な目標達成と従業員のモチベーションアップにつなげています。

### 法定以上の手厚い有給休暇

ライフスタイルに合わせた柔軟な働き方ができるよう、入社2年6ヶ月を経過した社員には年間20日の有給休暇が付与されます。労働基準法では2019年より年10日以上有給休暇が付与される労働者に対して、年5日以上取得させることを義務付けていますが、スリーハイではすべての社員が5日以上の有給休暇を取得しました。

勤続年数	6ヶ月	1年6ヶ月	2年6ヶ月
有給休暇日数	10日	11日	20日

## 社員教育

### 社員研修の実施

自ら考え課題解決できる社員の育成を目指して、様々な研修を実施しています。

社外より人材育成コンサルタントの講師を招いての研修では、「スリーハイの魅力を改めて再確認する」、「これからのスリーハイと、個人のミッションを考える」などのテーマを設定し、一人ひとりが会社のことや自分の仕事について考える機会を持ちました。全社員が一堂に会して話し合う機会を定期的に持つことで、同じ目標に向かって進む仲間としての意識を合わせています。

また、従業員が自主的に開催する勉強会、英会話レッスンやヨガレッスンなどの自己啓発研修も定期的で開催しています。



### SDGs 勉強会を開催

目の前の仕事に終始することなく、視点を広く社会に向けてことを意識して、SDGsの勉強会を開催しています。2019年10月には平日の1日を勉強会のための臨時休業日として、SDGsの理解を深めるためのSDGsカードゲームを実施。社会や環境に優しい取り組みの重要性を認識することができました。

また、2021年5月より毎日の昼礼で社員向けにSDGs推進担当からのレクチャーを開始。Youtube動画や新聞などに掲載されたSDGsやESGに関する情報を共有しています。2021年9月にはSDGs月間として社員一人ひとりが興味のあるSDGsの取り組みについて発表し、SDGsを自分ごととして捉える意識づくりをしています。

## データ

### 在籍者数（全従業員）と離職率

従業員がやりがいを持ち、働きやすい環境づくりに力を入れています。

2021年度は、令和3年上半年期雇用動向調査結果（厚生労働省）における製造業の平均離職率9.4%を下回る結果となりました。2022年度は離職率5%以下を目指します。

	在籍者数	離職者数	離職率
2019年度	37	2	5.4%
2020年度	39	7	17.9%
2021年度	35	2	5.7%

### 職住接近の推進

地域住民との共生を目的に、地域活動で当社にお越しになる子どもたちの保護者の方など、地域住民を積極的に雇用しています。

	従業員数	横浜市民	都筑区民
2019年度	37	27	18
2020年度	39	29	20
2021年度	35	27	18

## スリーハイ SDGs アクションプラン

2030年のSDGs目標達成期限に向けて、社会課題解決のためにスリーハイが重点的に行う取組みを「スリーハイ SDGs アクションプラン」としてまとめました。

	アクションテーマ	アクション（取組概要）
従業員	1 教育や就業訓練の機会を増やそう！	誰もが発言しやすい社風を維持するために、毎日ミーティングを行う
	2 技術力の向上やコミュニケーション力強化でCS、ES向上を目指そう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキルの見える化・期待役割の整理</li> <li>全従業員を対象としたスキルマップを製作</li> <li>スキルに応じ報酬を支給（マイスター制度）</li> <li>社外研修の実施</li> <li>OJTトレーニング</li> <li>オンライントレーニングの実施</li> <li>技術継承</li> <li>年6回の上長との定期面談</li> </ul>
	3 職住近接モデルを目指そう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民を積極的に採用（職住近接）する</li> <li>近隣に住む子育て世代の女性を積極的に受け入れる</li> </ul>
地域・社会	4 雇用を創出し、「人」が経済をまわそう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>横浜市が掲げるビジョン「サーキュラーエコノミーplus」の実現に向けた活動を継続する</li> <li>都筑リビングラボへの参画</li> <li>障がい者の積極採用</li> </ul>
	5 未来を担う子どもたちの可能性を上げよう！	「こどもまち探検」の受入れを継続して行う
	6 「働く」を楽しむ機会を増やそう！	中高生の職業体験や職業講話、大学生インターンシップを積極的に受け入れる
	7 地域コミュニティのハブとなり企業と地域を結ぼう！	地域社会と企業を結びつけるコミュニティスペースとしてDENを活用
	8 廃棄物を削減しよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクルの徹底</li> <li>マイ箸・マイコップの利用を全従業員が徹底する</li> <li>段ボールの再利用を徹底</li> <li>廃材の再利用</li> </ul>
製品・顧客	9 新しい販売の軸をつくり、強い組織にしよう！	業界別課題にアプローチする製品の開発・販売
	10 廃材の再利用率をUPさせよう！	これまで捨てていた端材をECサイトで販売。必要に応じて、公共機関に寄付
	11 モノの流れの見える化をしよう！	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕入れ先評価を定期実施</li> <li>取引先への定期訪問</li> </ul>
	12 お客様の声を製品化しよう！	顧客の声の収集・蓄積
	14 廃棄物を削減できる仕組みをつくらう！	原材料、物流、生産、利用、廃棄のあらゆる場面で廃棄物の不発生、削減、再利用できる仕組みづくり
産業・インフラ	15 あらゆる産業に「スリーハイ」製品を！	過去の導入事例を蓄積し公開する。製品を垂平展開する
	16 世界中に「スリーハイ」製品をお届け！	日本のみならず世界中からスリーハイ製品を注文できる仕組みをつくる

アウトプット（結果）	該当するSDGs 17の目標	該当するSDGsターゲット
個を認め、柔軟性のある組織を醸成する		4.5
ビジネススキルを身につける	 	4.4 8.5
様々な働き方(時短・パートなど)にも柔軟に対応し、安定して優秀な人財を確保できる	 	5.5 8.5
再生し続ける経済環境に加え、誰もがイキイキと働ける社会づくりを実現する	   	1.4 4.4 5.5 8.8
我がまちの会社を知ることで地域企業を身近に感じてもらう	 	4.1 11.3
学びの場を提供するとともに、「働く」ことの楽しさを伝える	 	4.4 8.6
東山田工業地域における地域住民と企業の良好な関係性づくり	 	11.7 17.16
資源の有効活用で環境負荷を減らす		12.5
経営基盤を整え、新事業に着手		9.b
廃棄物の削除と売上アップ	 	9.4 12.5
高品質で安全な製品を安定供給	 	9.2 12.7
顧客のニーズやウォンツに基づいた新製品開発		9.5
限られた資源を大切に使う意識の向上	 	9.4 12.4 12.5
あらゆる産業の「熱の困った」を解決する		9.2
スリーハイブランドで国内外の、熱のお困りごとを解決する		9.1 9.c

2020年10月～2023年9月までの3ヶ年計画です。

## 令和2年度 子供と家族・若者応援団表彰（子供・若者育成支援部門）内閣府特命担当大臣表彰

すべての子供・若者の健やかな成長を支援する活動において顕著な功績があった企業、団体または個人に対し、令和2年度は全16件が受賞、企業は弊社を含む2社のみが受賞しました。2013年より継続している「こどもまち探検」の取り組みが評価されました。

### 健康経営優良法人

地域の健康課題に即した取組や日本健康会議が進める健康増進の取り組みをもとに、特に優良な健康経営を実践している大企業や中小企業等の法人を顕彰する経済産業省の制度です。スリーハイの喫煙率は0%と極めて低く、健康診断の受診率は100%と従業員の健康第一の経営を行っています。



### かながわ中小企業モデル工場

製造業として、現下の経済状況に即応した、柔軟な経営体制が確立されているか、県税の納付（入）状況、環境関連手続の状況、公害発生の有無、公的貸付金の返済状況、不当労働行為の有無、労働災害の発生状況、その他労働基準の確保処置等を確認するとともに、企業財務について良好であると認められる企業を認定する制度です。

### メイドインつづき企業

横浜市都筑区内の中小製造業の企業経営安定化と雇用の維持を図るため、優れた技術力や独創的な製品を「メイドインつづき」として認定し、中小製造業の受発注のマッチング機会の向上や販路の拡大を支援することを目的とした制度です。



### かながわ治療と仕事の両立推進企業

がん治療が必要になった従業員が、働きながら治療を続けられるように、治療と仕事の両立に資する休暇制度や勤務制度を整備している企業を神奈川県が認定する制度。時間単位有休、傷病・病気休暇制度、フレックスタイム制度など、所定の項目を満たしている企業が認定されます。



### かながわ SDGs パートナー

SDGsの取り組みを実施し、公表している企業、NPO、団体、大学を「かながわ SDGs パートナー」として神奈川県が登録し、連携することで県内のSDGsに関する企業、NPO、団体、大学の取り組みを促進させることを目的としています。工場と住宅が混在する準工業地域で、地域住民の理解を深めるため運営を開始した、弊社製品のショールーム兼コミュニティカフェとして「カフェ&ファクトリーDEN」等の取り組みが評価され登録されました。 ※スリーハイは、第3期に登録されています。

### Y-SDGs（上位 Superior）

SDGsに取り組むことで、持続可能な経営・運営への転換、新たな顧客や取引先の拡大、さらには、投資家や金融機関がESG投資等の投資判断への活用につなげることを目指した横浜市の制度です。スリーハイは、【上位（Superior）】の認定を受けています。



### 横浜知財みらい企業

知的財産活動を通じて経営基盤を強化し、未来に向けて成長を志向する企業を、更なる発展を目指して横浜市が認定・支援する制度です。「事業計画」、「知的財産活動の目的・位置付け」、「知的財産活動を実践する仕組み」、「知的財産活動の事業への貢献」の面から評価し、一定水準以上の企業が認定されます。



### 横浜型地域貢献企業（最上位認定）

横浜市民を積極的に雇用している、市内企業との取引を重視しているなど、地域を意識した経営を行うとともに、本業及びその他の活動を通じて、環境保全活動、地域ボランティア活動などの社会的事業に取り組んでいる企業等を、一定の基準の下に「横浜型地域貢献企業」として認定し、その成長・発展を支援する制度です。



### 寺本 明輝

株式会社浜銀総合研究所 顧問・特任コンサルタント  
横浜商科大学非常勤講師  
中小企業診断士

『Sustainability Report 2021』では、スリーハイの経営理念に基づき、価値共創のためのビジネスモデルを示すとともに、SDGsの目標との紐づけも行い、そのうえでKPIを設定し、実績を明らかにしています。

真摯に取り組んできた活動の確かな成果と企業価値向上に対するコミットメントを示したレポートをまとめられた努力に改めて敬意を表します。

#### 【今回の取り組みで高く評価できる点】

- ・自社の存在意義を「製品・サービス」と「人と組織」に実装することにより、事業戦略とSDGsへの取り組みが一体化されていることが多様な活動内容から、よく理解されます。
- ・ステークホルダー経営の宣言通り、NPO、行政、大学など様々なステークホルダーとの連携や協働が随所に見られ、活動における共感のネットワークが広く形成されていることが読み取れます。

#### 【取り組みの進捗を評価しつつ、今後さらに期待したい点】

- ・事業活動においては、様々なリスクや不確実性が伴います。その観点から、持続可能性や成長性に影響するリスクを想定し、リスクに備えることが重要となります。従って、今後は、対処すべきリスクの開示とその責任についても明示することが求められます。
  - ・SDGsアクションプランで示されているアクションの有機的つながりを意識するとともに、各々の達成目標値、ロードマップを示すことで、より活動のプライオリティが明確になるものと考えます。
- 最後に、スリーハイの「温める」活動が、さらなる進化を遂げることを期待しております。



### 鶴田 佳史

大東文化大学社会学部社会学科教授  
相模女子大学大学院社会起業研究科非常勤講師  
社会構想大学院大学コミュニケーションデザイン研究科客員教授

本レポートは、ブランドコンセプトをリニューアルしたことにとともに、社会とともに生きていく企業の姿勢と社会責任を表明するためにサステナビリティレポートの作成に初めて取り組んだものである。ESGに関わる取り組みが紹介はされているが、その活動と企業活動全体との関係性がわかりづらい。関係性が整理され明示されると企業の全体像が伝わるレポートとなるのではないのでしょうか。

企業の方向性については、「スリーハイの価値共創プロセス」として企業の将来像と価値創造のプロセスが提示されている。重点課題（マテリアリティ）が明示されているとさらに企業の方向性がわかりやすくなると思われる。また、「経営資源」と「企業価値の向上」の項目が資本ごとに区分され記載されていることは興味深い、「経営資源」と「企業価値の向上」の関係の整合性や項目の整理がなされるとより充実したものとなると考えられる。

初めてのレポートのためまだまだ改善の余地はあるが、人的資本を含む非財務情報が網羅的に記載されていることは評価できる。持続可能な社会実現への株式会社スリーハイの本気度と情熱が伝わってくるレポートである。

THREE HIGH  
CO.,LTD. SINCE 1990

株式会社スリーハイ

住所：〒 224-0023 神奈川県横浜市都筑区東山田 4-42-16

TEL：045-590-5561

FAX：045-590-5571

[www.threehigh.co.jp](http://www.threehigh.co.jp)

発行：2022年6月